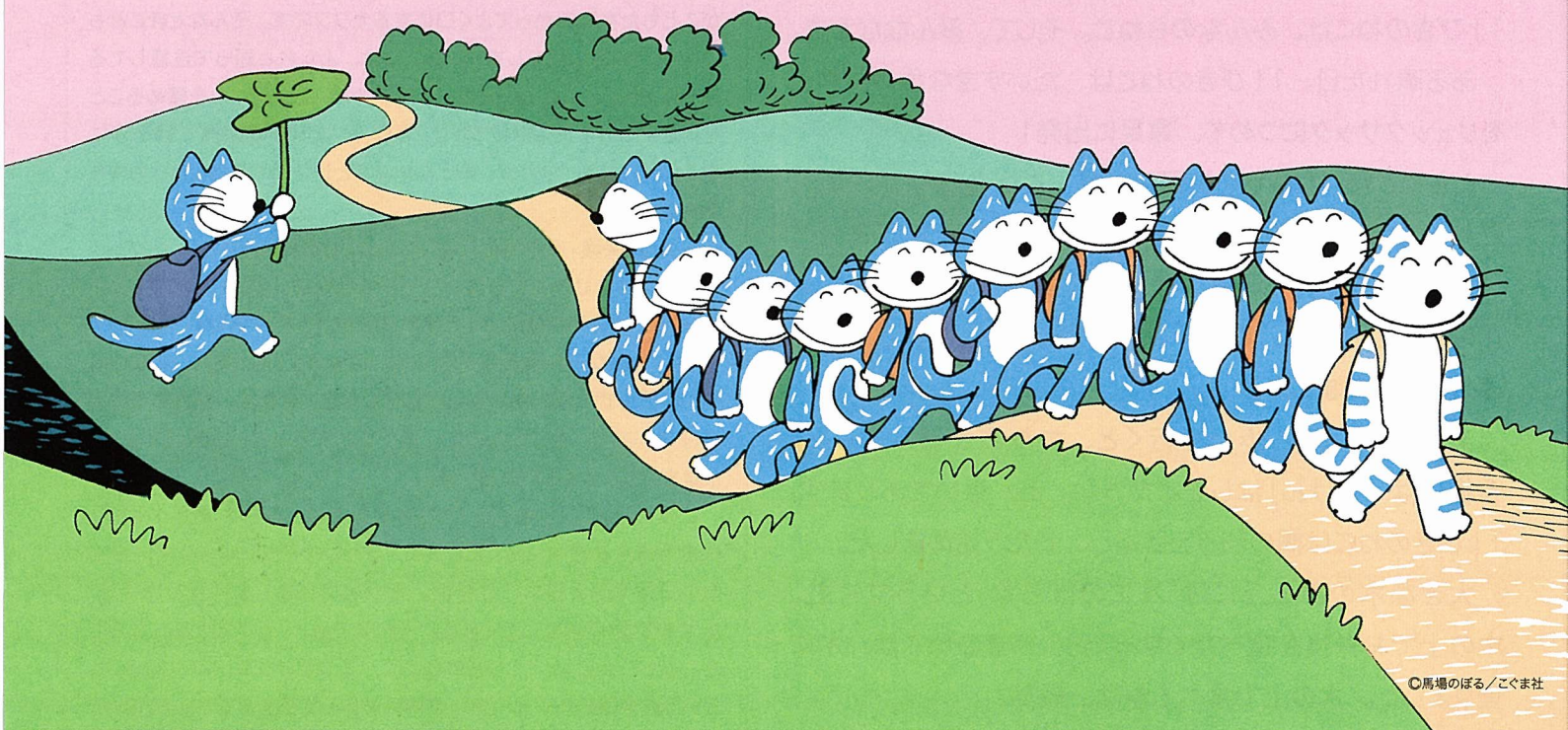


11 ぴきのねこ ふくくるのなか

原作/馬場のぼる(こくま社刊)

脚色/東口次登 演出/藤田光平 人形美術/永島梨枝子 舞台美術/西島加寿子
音楽/一瀬季生 照明/中村純隆 舞台監督/奥洞昇 制作/古賀恵子



©馬場のぼる/こくま社

2012年 **8月19日(日)**

開演PM1:30(開場30分前)

たんば田園交響ホール

TEL 079-552-3600 篠山市北新町 41

主催/篠山市・人形劇団クラルテ

■入場料(税込)【全席指定席】

〈前売〉一般:2,500円 友の会・団体:2,000円
中学生以下:1,300円 団体中学生以下:1,000円
〈当日〉各300円増し

2歳以下、膝上無料、クラルテ団体割引(10名様以上)・とものかい割引あります。
※前売券発売の場合、当日券はございません。お早めにご予約下さい。

チケット発売日 友の会先行予約 **6月10日(日)**
一般発売日 **6月17日(日)**



プレイガイド

◆篠山市内(079)
篠山市民センター 554-2188
小山書店 552-0019
木下楽器 552-0321
森本書房 552-0125
TSUTAYA 篠山店 590-2451
パザールタウンNEWS館サービスカウンター 594-3700
JA 丹波ささやま旅行センター 594-3090
黒豆の館 590-8077
紙ふうせん 554-3340
こんだ薬師 温泉ぬくもりの郷 590-3377

◆丹波市内(0795)
春日文化ホール 74-1050
かいばら観光案内所 73-0303
丹波の森公苑 72-5170
◆三田市内(079)
阪急オアシスえるむプラザ... 565-1148
◆その他
ローソンチケット 0570-084-005
Lコード 55029 発売開始 6月17日
※発売初日の受付は10時から、以降は24時間受付。

11ぴきのねこ ふくろのなか

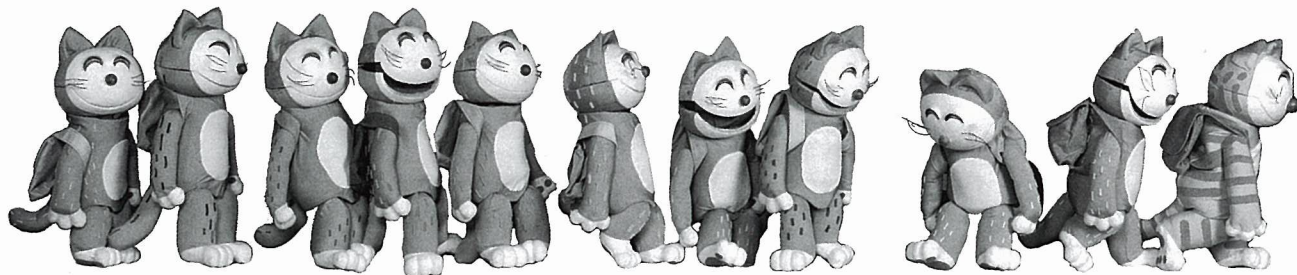
原作／馬場のぼる(こぐま社刊)

脚色／東口次登 演出／藤田光平

人形美術／永島梨枝子 舞台美術／西島加寿子

音楽／一ノ瀬季生 照明／中村純隆

舞台監督／奥洞昇 制作／古賀恵子



あらすじ

ニャゴ、ニャゴ、ニャゴ、ニャゴ、ニャーゴ!

11ぴきのねこは、みんなのらねこ。そして、みんななかま。

ある晴れた日。11ぴきのねこは、だいすきな魚のお弁当をリュックサックにつめて、遠足に出発!

とらねこたいしょうを先頭に、歌いながら歩いていると、きれいな花畑がありました。見ると、立て札があって「はなをとるな」と、書いてあります。11ぴきのねこは花畑に飛び込むと、花を1本ずつ頭にかざって、ふたたび遠足に出発しました。

また歌いながら歩いて行くと、つり橋がありました。看板には「きけん!はしをわたるな」と、書いてあります。11ぴきのねこは橋の向うを目指し、わたり始めました。

大きな木のある丘には「木にのぼるな」という立て札。木の上でお弁当を食べたくなった11ぴきのねこは、木に登りました。木の上で食べる魚は、最高!

すると、風に乗って大きな袋が飛んできました。袋には「ふくろにはいるな」と、書いてあります。

さあ、みんなは・・・。



演出にあたって

藤田光平

「〇〇しては、いけません!」「早く、〇〇しなさい!」おとなたちがこどもたちに向かってよく口にするセリフです。そんなときこどもは大抵いやな顔をします。おとなは、よかれと思って注意しているのですが、こどもが失敗したりつまづいて、身や心を痛めることを何かにつけて先回りして防ぐことは、いわゆる過保護・過干渉になるのでしょうか。中には、おとなのエゴとしか思えないようなものもあります。

さて、過保護・過干渉は、何もこどもの問題だけではないようです。本当に守らなければならないルールや規則が、崩されようとしている一方で、公共の場でよく目にするのが、「〇〇するな!」「〇〇してください。」などの標識や看板です。目に見えない誰かに監視されているようで、何だかからだもぞもぞしてきます。自分で考えて自分で判断すべきことなのに、何でそこまでいちいち指図するの、と腹立たしくなるものもあります。

この人形劇に登場する11ぴきのねこは、楽しい遠足の途中、何度も禁止の看板に出くわします。きれいな花畑にはおおよそ似合わない「はなをとるな」の看板。書かれてあることは正しいけど、なぜか反対の事をしたくなる。それまでは、「はなをとる」なんて思わなかったのに。11ぴきのねこは、「1つだけなら、だいじょうぶ」という自分達のルール(?)を勝手に作って花をとってしまいます。危険な吊り橋も、「わたるな」とあるのに、「さあ、勇気を出して」渡ってしまいます。こうして、ねこたちは、思うまま楽しい遠足を満喫します。そして、「ふくろにはいるな」といわれて、ふくろに入るときは、まるで命令に背くことを楽しんでいるようです。

こうして、11ぴきのねこは、ウピア八のわなにまんまとはまってひどい目にあい、後悔することになります。ウピア八はその名前に似合わず、ねこたちのすきにつけこんで捕らえてしまうような、実は相当なワルモノのようです。そして、こんなワルモノから逃れるには、そう、みんなで知恵を出し合い、一致団結するしかありません。

この人形劇を観てくださるみなさんが、晴れた空の下、11ぴきのねこが大きな木の上でお弁当の魚を食べるときの爽快感を感じ、ウピア八から脱出しようとする11ぴきのねこを応援してくだされば、と願っています。